

職員育成 5つの取り組み

① 学ぶ会について

学ぶ会では、毎月第三月曜日に 18時から一時間 15名程度の参加者で読書感想会を行っています。

今年のテーマの書籍はアドラーの「嫌われる勇気」です。

具体的な運営：書籍そのものからの学びだけでなく、考えを共有し、相互に教え合うことで、新たな気づきを得ることができます。

事前に読み、考えをまとめる → 参加者との対話を通じて「教わるのではなく教え合う」

- | | | |
|----------|-----|---|
| 考えを言葉にする | 言語化 | 考えたことや感じたことを言葉にする力 |
| 教訓を引き出す | 教訓化 | ケースの登場人物や状況を客観的に分析し、そこから普遍的な教訓を引き出し、原理原則化する |
| 自分に引き出す | 自分化 | 自分に当てはめるとどうか 自分はどうか行動するか ということまで考える |

参加職員の感想としては、視点を変えてものを見ること、判断することに役立っています。



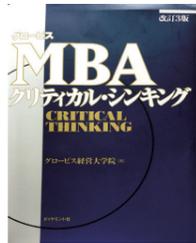
② グロービス経営大学院での学び

これから社会は大きく変化していく中で、法人としてどのように考え、判断していくべきか求められます。基本的論理的思考を身につけていただくように取り組んでいます。

3か月の短科コース受講【7月～9月 オンライン受講】

- 受講者** 4名
 - 科目** クリティカル・シンキング
 - 目的** ビジネスを実践していく上での基礎体力を養う
- 社会人に必要不可欠な論理思考力（ロジカルシンキング）を鍛える科目です。ロジカルシンキングのスキルは、考え方を理解することは難しくないのでありますが、それらを実務で使えるレベルまで身に付けるには数々のハードルが存在します。この科目では、数多くの演習とディスカッションを通じてアウトプットを繰り返し、こうしたハードルを乗り越えます。

受講者の感想：今までこれだけ勉強したことは無い。課題を行うのにこれだけ悩んだことは無い。しかし、他の受講者との対話を通して論理的な考え方を身につけられている。



③ 近畿老人福祉施設研究協議会に取り組み報告 2021年8月

2020年2月に行われた業務改善報告会でQC大賞に輝いた取り組みを対外にも報告しました。

- 報告事業所** 小規模多機能型居宅介護 ぼだいじみんなの家
- 内容**

テーマ：「自立して動ける環境を考える ～環境とスタッフの意識～」
内容：利用者の方が自らできる方もいる中で、事業所の環境やスタッフの関わりの中で自立を妨げている要素があるか？ということ改善するために取組を行いました。

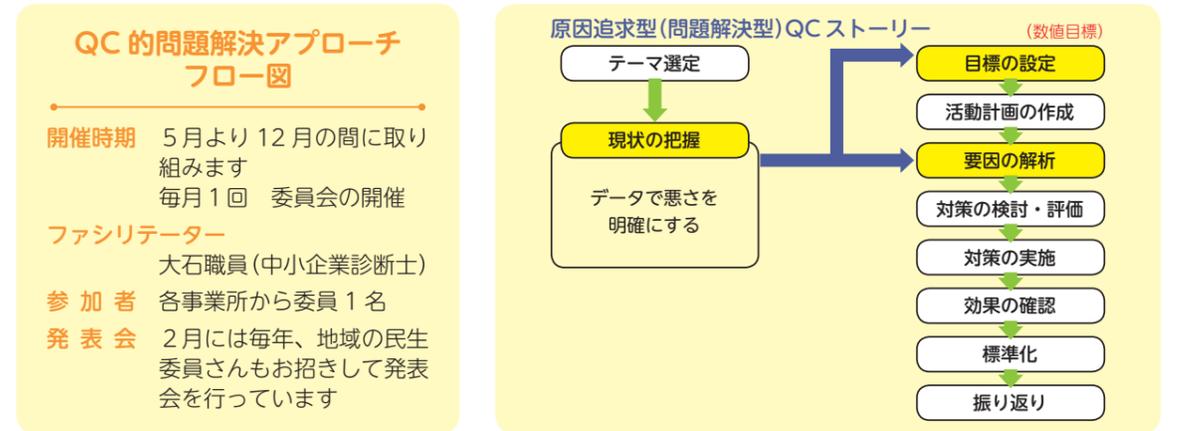
取り組み：利用者様・事業所・職員のアセスメントを行うことから始めました。実際にアセスメントを行うと、改善する箇所が明確となり、具体的対策もできました。動けるためのスペースを確保し、自分で気づいて動ける環境（お茶を汲む工夫・ワゴンを活用してご自身で配膳・道具の場所を分かりやすく、一日の予定を見易く）を作ることができました。職員も利用者の方をよく見て、手を出しすぎず見守りや声掛けを行うことができるようになり、皆さんの活動量も増え、職員も成長させていただけたと思います。今回の取組を行うことで活気づいた事業所となりました。



④ 業務改善員委員会の取り組み

当法人のサービス利用者様や地域住民に、よい介護サービスを提供し続けるために、職場全員が力を合わせて、業務の改善に取り組み、介護サービスの質の向上および業務体質の強化を図ることを目的としています。

業務改善活動は、各職場における課題を明らかにし、現場で改善、解決に取り組む改善活動です。上司が課題を考え、やらせるのではなく、利用者様の視点にたって課題を捉え、自らの活動で仕事のやり方を科学的手法で改善するものです。



⑤ ノーリフティング・ケアの取り組み

介護する側・される側双方において安全で安心なケアを行うためにノーリフティング・ケアを推進しています。介護技術に関する人材育成システムと労働安全衛生マネジメントの確立のため、認定理学療法士がプロジェクトリーダーとなり以下の取り組みを行っています。

- 【人材育成】**
 - 各事業所に推進リーダー配置
 - 介護技術習得のための研修動画の配信
 - 介護道場を設置し、認定理学療法士が直接指導
 - 介護技術チェックシートの活用 ・外部研修への参加
- 【労働安全衛生マネジメント】**
 - リスクアセスメントの実施 ・福祉用具・機器の導入
 - ヒヤリハットの運用変更



2020年度の決算報告

| 貸借対照表(全施設合計) 令和3年3月31日現在 (単位:円) | | 事業活動計算書 令和2年4月1日～令和3年3月31日 (単位:円) | |
|---------------------------------|---------------------------|-----------------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | 負債の部 | 勘定科目 | 勘定科目 |
| 流動資産 590,385,175 | 流動負債 69,530,607 | サービス活動収益計 748,362,743 | 特別収益計 12,498,889 |
| 固定資産 1,070,646,249 | 固定負債 115,317,694 | サービス活動費用計 665,718,645 | 特別費用計 12,478,917 |
| (基本財産) 768,655,899 | 負債の部合計 184,848,301 | サービス活動増減差額 82,644,098 | 特別増減差額 19,972 |
| (その他の固定資産) 301,990,350 | 純資産の部 | サービス活動外収益計 9,081,011 | 当期活動増減差額 88,021,554 |
| | 基本金 92,980,024 | サービス活動外費用計 3,723,527 | 前期末繰越活動増減差額 874,377,225 |
| | 国庫補助金等特別積立金 361,421,344 | サービス活動外増減差額 5,357,484 | 当期末繰越活動増減差額 962,398,779 |
| | その他の積立金 70,966,096 | 経常増減差額 88,001,582 | 繰越活動増減差額の部 |
| | 次期繰越活動増減差額 950,815,659 | | 基本金取崩額 0 |
| | (うち、当期活動増減差額) 88,021,554 | | その他の積立金取崩額 18,416,880 |
| | 純資産の部合計 1,476,183,123 | | その他の積立金積立額 30,000,000 |
| 資産の部合計 1,661,031,424 | 負債及び純資産の部合計 1,661,031,424 | | 次期繰越活動増減差額 950,815,659 |

| ●収益性 | |
|-----------------|--|
| *経常増減差額率: 11.8% | |
| *人件費比率: 67.2% | |

| 財産目録 令和3年3月31日現在 (単位:円) | | | |
|-------------------------|---------------|-------|---------------|
| 流動資産 | 590,385,175 | 流動負債 | 69,530,607 |
| 固定資産 | 1,070,646,249 | 固定負債 | 115,317,694 |
| | | 差引純資産 | 1,476,183,123 |